



2021/09/29 公開

ごうちゃんねる (GO-CHANNEL) ◆ 終末預言シリーズ (前兆編) ◆
#3 「プレ患難時代を告げる第一の前兆～世界大戦」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。このシリーズは『終末預言シリーズ (前兆編)』と題して皆様にご紹介しております。人類は終わりの時に向かっている。これが聖書が一貫して語っていることですが、“終わりの時” というのは、何もかもなくなってゼロになる・無になるという意味ではありません。

人間が人間を支配する時代が終わるといことです。

特に狭い意味で“終わりの時”を使うと、7年間の患難時代を指すのです。

人類歴史の終焉で、この7年間、もう今までになかったような苦しい時代が始まります。

この7年間に、人間離れした、ハッキリ言って悪魔的人物の独裁者が、その後半3年半の間 全人類を支配し、自分自身を神として礼拝するよう強要します。この人物が誰なのか分かりません。

分かりませんが、ハッキリ言えることはユダヤ人ではないということです。

では、どの民族から出るのか？ 旧約聖書のダニエル書を見ると、ローマ帝国・ローマ人の末裔であると示唆されているんですね。ですからユダヤ人ではないということです。

ところで、患難時代の前に、時系列に並べることのできる前兆が全部で10個あるんです。

そのうちの4つは既に実現し、そして実現し続けています。残り6つはこれから実現していく事です。

このシリーズでは10個全部をご紹介しようと考えております。

1) 第一次世界大戦 (1914-1918) ・ 第二次世界大戦 (1939-1945) が勃発する

キリストが十字架に掛かる直前に、弟子たちが質問したんでしたね。「この世の終わりはいつ来ますか。その前にどんな前兆がありますか。」キリストは言われました。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がる。」これはヘブル的な独特の言い回しで、「全ての民族・全ての国が参加する世界的・地球的スケールの大戦争が勃発する。それが前兆の1つ目だ」と言われたのです。

さて、第一次世界大戦と そのやり残しである第二次世界大戦、これこそが全世界が参加した戦争だと言うのですが、果たしてそれが妥当なのかを検証したいと思います。

実は、第一次世界大戦を考えるのは非常に有益なことなんです。

第一次世界大戦前の世界情勢は、21世紀・今日 (こんにち) の世界情勢とよく似てるんです。

大戦前夜、世界を牛耳っていた・覇権を握っていた国は大英帝国です。それに対し挑戦して、大英帝国に代わって世界の覇権を握ろうと新興国がどんどん力をつけ出しました。その新興国がドイツ帝国です。

大英帝国のところに現在のアメリカ、ドイツ帝国のところに中国を放り込んだら、今の世界状況と第一次世界大戦前の状況がすごく似ているし、参考になるし、その時代が持っていた不安感を共有することが出来るんじゃないでしょうか。

大英帝国は世界中に植民地を持っていましたが、ドイツもそれをし始めたんですね。世界の秩序を自分の力で変更するという野心があったわけです。ドイツは民族的親戚であるオーストリア、ハンガリー帝国と同盟を結びました。ロシアと敵対関係にあるブルガリア王国もドイツを頼ってその陣営に入ります。

この3つが三国同盟の同盟国です。

それに対して、イギリスはドイツの西と東にある国を味方に付けます。西がフランス、東がロシア。イギリス、フランス、ロシア帝国、この3つが連合軍ですね。

この3対3で戦うヨーロッパ限定の戦争になると思いきや、実際に戦争が始まると次々に連鎖反応を起こし、地球上のほぼほぼ全ての国・全ての民族が参加する大戦争に発展してしまふんです。戦場は主にヨーロッパでした。もちろんアジアでもあったんですよ。でも主にヨーロッパです。ヨーロッパで起きた戦争。戦争発端の当事国もヨーロッパの国々。であるにもかかわらず、ヨーロッパに所属していない国々・民族が参加する戦争になった。その実例を3つほど紹介しましょう。

①アメリカ

アメリカはヨーロッパのゴタゴタと縁を切って、「我々は我々の国で独立してやって行きますんで。」モンロー主義。引きこもりなんです。ヨーロッパの戦争に巻き込まれたくない。北米・中米・南米は我々の庭だけど、ヨーロッパのゴタゴタには巻き込まれません。戦争なんか知りません。これが国是だったんですよ。

ところが、このアメリカが、第一次世界大戦に自ら手を挙げて参戦するきっかけとなった大事件が起こった。なんと、第一次世界大戦前の真最中に、大戦の当事国であるロシアで革命が起こったんです。共産革命/ロシア革命ですよ。ロシア帝国は崩壊し、代わってソビエト社会主義の国が登場したんです。そしてソ連は、「前のロシア帝国がおっぱじめた戦争は、わしゃ知らん。こんな戦争はイチ抜けた！」と戦争から撤退したんですね。

そしたら、ロシア帝国の軍事力を当てにしていたイギリス・フランスは一気に劣勢に陥る。ドイツは勢いづく。アメリカはそれを非常に心配したんですね。

なぜなら、イギリス・フランスはこの長引く戦争を続行するために、アメリカに莫大な借金を負っていたからです。もしイギリスもフランスもこの戦争に負けたら、アメリカが貸した金が返って来ないかもしれない。それは困るぞ！ アメリカは貸した金のことがあったので、第一次世界大戦に参加したのです。

②アジアにおける最強国家、我が国日本。正確には大日本帝国

日本はアジアにあってヨーロッパとは関係ない。関係ないにもかかわらず、日本もまた第一次世界大戦に参戦しました。その最大の理由は日英同盟を結んでいたからです。

日露戦争が第一次世界大戦の10年前にありました。日本のような小さな国が大国ロシアを打ち負かすことが出来た最大の理由は、日英同盟でイギリスがなにかとバックアップしてくれたことがあるでしょう。日英同盟は日本にとって最強の外交カードでした。これを維持するために、イギリスのたつての要請を遂に受諾し参戦したわけです。アジアの国なのに参戦したのです。

③戦争があまりにも長引いたので、兵士の数が足りなくなったんですね。

そこでイギリスは、方々にある自分の植民地から人間を引っ張って来て、連合軍の兵士に仕立てて戦争に投入しました。インドから144万人、カナダから82万人、オーストラリアから41万人の人間を引き抜いて、戦士に仕立て上げて投入したんです。

フランスも同じことをやりました。フランスは主にアフリカに植民地を持っていたので、アルジェリアをはじめアフリカ人を兵士にして送り出したのです。

これで、ほぼほぼ色々な民族が戦争に参加することになったんですね。

当時世界には 42 カ国しかありませんでした。今 208 あります。

その 42 カ国の中で、ヨーロッパの 6 カ国は第一次世界大戦に参戦しませんでした。

国家の方針が“中立を守る”という方針だったからで、その代表がスイスです。スイスは永世中立国で、どちらの国の味方もしないし敵にもならない。完全中立・完全武装で中立を守る。スイスは国家としては参戦していません。しかし、義勇兵としてたくさんのスイス人が参戦しています。

義勇兵は傭兵ではありません。傭兵は金で雇われて戦争に参加する兵士です。義勇兵は国家の軍隊に所属せず、ただただ自分の自由意思に基づいて、報酬全く関係なしに参加する兵士です。

6つの国から義勇兵が出てますよ。だから国家として参加しなくても、ほぼほぼ全ての国の民族がこの戦争に参加したということなんです。

人類歴史は戦争の歴史ですね。過去 5560 年の間に記録に残っているものだけで、約 15000 の戦争がありました。これは記録に残っているだけなので、それ以外のものも加えたら、もっとたくさんあったに違いありません。しかし、これらの戦争はみな一定の地域に限定された戦争なんです。1つの国と1つの国。いくつかのグループ同士の戦争はあったと思いますし、そういうこともするでしょう。

しかしながら、人類歴史は長い間 西洋と東洋が分かっていたわけで、東洋で大戦争があっても西洋は知らん。西洋の中で戦争があっても東洋の国々が参加することはなかったのです。

地球的スケールで1つの戦争に参加するなんてことは物理的に不可能でした。

しかし、キリストは仰いました。「世の終わりの前兆、それは地球的スケールの大戦争が起こることである。」それが成就したのです。第一次世界大戦と その 21 年後に起こる第二次世界大戦。

つまり、第一次世界大戦・第二次世界大戦以降の時代、私たちは特別な時代に入ったんです。

前兆の時代に入りました。プレ患難時代に入ったということです。これが 10 個ある前兆の 1 つ目です。

次回は 2 つ目についてご紹介したいと思いますので、関心がある方はぜひ続けてご覧ください。

またよろしければ、チャンネル登録をお願いします。

それではまた、『ごうちゃんねる』でお目にかかりましょう。お元気でいらしてください。さよなら！！